

日本文化とインドの神々

DASH Shobha Rani (大谷大学・仏教学科)

大谷大学同窓会オンライン講演会

2020年9月9日

❖ 仏教が日本に伝えられると、次々にヒンドゥー教の神々をも含むインド文化の様々な要素が日本に伝来します。仏教に取り入れられたヒンドゥー教の神々は崇拝の対象となり、日本独自の文化を築き上げます。

❖ deva = 天 ～天はヒンドゥー教の神々

吉祥天 = ラクシュミー女神 (Lakṣmī)

毘沙門天 = クベーラ神 (Kubera)

歡喜天 = ガネーシャ神 (Gaṇeśa)

梵天 = ブラフマー神 (Brahmā)

帝釈天 = インドラ神 (Indra) など

仏教においては天部の神々として日本に知られています。

❖ その中でも特に人気があるのは、弁才天女神です。

弁才天 / 弁財天

インドの名前：サラスヴァティー (Sarasvatī)

語源 → saras <√sṛ> (流れる) + vatī (～を持っている者の女性形)

Sarasvatī = 水の流れを持っているもの

ヴェーダ文献の中には美しい立派な河としてその恵みが記されています。

「流れる」という特徴から → 川、水、妊娠、出産、弁才、知識、学問、
音楽、の女神として展開

学問の女神 → 「智慧の流れ」

歌、踊り、音楽の女神 → 「音の流れ」

❖ インドで毎年行われるサラスヴァティーの祭儀：サラスヴァティー・プー
ジャー (Sarasvatī-pūjā)

インド旧暦のマーガ (Māgha) 月の白分の半月の五日 (西暦で1月下旬～2月
月上旬) に祝われます。これはヴァサンタ・パンチャミー (vasanta pañcamī)
の祭りと言われます。

❖ ネパール密教にはサラスヴァティー女神と文殊菩薩は同一視され、スリラン
カの上座部仏教の中にも取り入れられています。